

てなく天地の恵に浴している。天地は月日の理で、人は天地抱き合せの、親神のふところに抱かれて限らないつくしみのままに生活している。この親神を天理王命と祈念して、この十全の守護によつて人間を初めとして万物が生成を遂げていることを説き広めるために昭和十年九月東山村に部属教会として、星東作が達市（西の字はない）宣教所を開設したが、昭和十三年二月八日教会所長中村仲吾（初代）が死亡したので同年六月十八日教会所長に佐藤新七郎（二代）が任命された。

昭和十六年四月一日天理教々規の改正によつて、天理教幾寅分教会と改称、たすけ一条からつとめ一条に説きすすめて陽気ぐらしの教線をひろげ、昭和十八年六月十日金山市街に佐久田太志によつて布教所を開設し、信仰に燃える心の喜びを欲を忘れた心からの「ひのきしん」によつて現わすことを教え広げたのである。

昭和二十年四月旭川市花咲町に部属教会として甲旭分教会を開設鈴木泉が会長になった。

つづいて昭和二十三年十月二十六日分教会長佐藤新七郎が老齢になつたので辞職し、同年十一月十日分教会長に中村茂（三代）が任命された。

部属教会二、布教所二、教師七名、教徒（准教師）四

〇名、信徒一二〇名（部属教会ふくまず）は旭川、富良野、山部、東山、釧路、南富良野にあつて、陽気ぐらしは他の人々と共に喜び、共にたのしむところに現れる、皆々心勇めば、どんな理も見え、どんな花も咲くと張りきっている。

元旦祭一月一日、春季大祭一月十一日、春季例祭三月二十日、秋季霊祭九月二十日、秋季大祭十月十一日、月次祭毎月十一日等が年中行事である。

佐々木左太郎、星東作、生出六四郎、磯松平次、佐々木教馬、佐藤栄、高橋民吉、神田外吉、佐久田まつの、稲垣俊雄の諸氏が功労者であつた。

第十六章 東鹿越大山祇神社

大沢を流下する石灰川に添うて日鉄鉱業株式会社北海道鉱業所東鹿越鉱山の杜宅街をのぼつて行くと、鉱山事務所裏に大山祇神社がある。

小さな祠堂の中にまつられているが、多くの幣束が立つていた。四国愛媛県大三島、大山祇神（大山祇神社）を祭神とするものである。

社殿建設は前経営者王子製紙株式会社の請負業者の中

村組が昭和九年九月十五日に建設したのであるが、昭和二十八年の台風によつて例れたので、昭和二十八年十月十二日、日鉄鉱業株式会社によつて再建し、鳥居も同じ頃出来たのである。

戦死戦没、殉職者の招魂碑は神社から二十米程度離れたところに昭和十二年十月設立された。（台石も碑身も石灰石で高田良作謹書）

昭和十八年二月、日鉄鉱業が諸権利をゆずりうけたとき神社も共にゆずりうけたが、鉾山を中心としている字東鹿越は、全部落の守護神として信仰され、毎年九月十二日の山神祭は東鹿越の祭典として年中行事の一つとなつてゐる。